



橋爪大三郎氏

山下悦子氏

「SAPIO」の
小林よしのりさんの
「従軍慰安婦
カトマスコミを撃つ」
はジャーナリストが
従軍慰安婦の
証言の裏付けを
取っていないことを
問題にしています

単純に経済効果だけから
考えてもアジア諸国の
不信を抱えたまま
日本の経済が順調に
この地域に根付くとは
考えられません

むしろ従軍慰安婦問題は
戦争時の暴行・性的虐待を
国際法で取り締まるという
今の世界の流れの中であらう
日本の女性も他国の軍隊に暴行を
受けたからという理由で
免罪となるものではない

議論が男性中心に語られていることに
不満を持ちました。小林さんの
従軍慰安婦問題に対する考え方にも
男性的な視点があり慰安所と
一般的に語ってしまうのは
納得できません

8月20日「月刊では
雑誌を読む」と
いうコーナーがあり
ここでもわしの24章が
とりあげられている

そして毎日新聞
「雑誌を読む」
というコーナーがあり
ここでもわしの24章が
とりあげられている

その中で
わしの気になった
言葉を
次に
書きとめておく

橋爪さん
「脱正義論」
のコンビ
ありがと

わたしは橋爪さんの意見にも
山下さんの意見にも反論が
あるのだがページが足りないので
次回にする

1996-22

進路講演会

受験・大学・人生

橋爪大三郎

(東京工業大学教授)

こんにちは。こんなに大勢の高校生の皆さんの前で話をするのは、ほとんどないので緊張しています。つまらない話をする、皆さんは寝てしまうので、そうならないように頑張って話しをします。

今日のお話は、皆さんにも関係のある「受験・大学・人生」というテーマです。さらに、これを3つに分けてみます。最初に「受験とは何なのだろう」、2番目に「大学とは何なのだろう」、3番目に「人生とは何なのだろう」。こういう順番でお話します。

どれも、だいたい皆さん知っていることだと思うでしょう。それはそれでいいのですが、「私はこう考える」というものを話します。何かの参考になれば、幸いです。

I 受験とは何なのだろう

最初に受験について話しをします。

私は高校生の時、大学受験をしましたが、その頃なぜ受験があるのか少しもわかりませんでした。勉強は別に嫌いではなかったんです。しかし、それをいちいち試験される。しかも、それぞれの大学で違う試験があるので、なんてめんどくさいのだろう、こんなものはなければいいと思いました。腹が立ちました。

① 受験は成人式(通過儀礼)である

その後、大学で文化人類学を勉強したときに、私はアッと思ったことがありました。文化人類学では、未開社会の成人式(通過儀礼)というものを研究しています。英語では、イニシエーションといいます。

成人式(通過儀礼)とは、何でしょうか。

例えば、マサイ族では、一人前の大人として扱ってもらうために、ある時、槍を持ってライオンを倒しに行かなければいけません。誰だって生まれて初めてライオンを倒すのだから、こわい。ライオンも強いから、練習はしてはいきますが、最後は「一人だけで行ってこい」と言われ、槍を持ってライオンの前にだされます。

なかには、ライオンに喰われて死んでしまう者もいます。しかし、誰だって喰われるのは嫌だから、死にも狂いで頑張って、自分一人でライオンを倒して、村に帰ってくる。

そうすると、「よくやった」と言われて、村中総出で迎えます。そして、「今日からお前は一人前だ」となって、今まで子供扱いだったのが、途端に一人前の大人として扱われます。こういうことを、成人式(通過儀礼)といいます。

最近、バンジージャンプが流行っていますが、これも成人式(通過儀礼)の一種だったんです。バンジージャンプは、どこかの未開の部族が、足首につたを巻き付けて、高いところから

突き落とす。なかには、つたが長くて死んでしまう人もいます。しかし、バンジージャンプをやって村に帰ってくると、「今日からお前は一人前だ」となるのです。

文化人類学の勉強はここで終わりなのですが、私はその時、こう思いました。アッそうか、私たちの社会には受験があるけれども、これが成人式（通過儀礼）なんだな。要するに、社会が私たちをいじめているんだな。いじめられて、へこたれなかった者が、一人前なんだな。これは、当たっているかどうかはわかりませんが、その時私は、こういう意味なのかと思いました。

成人式（通過儀礼）には、次のような特徴があります。まず、危険であること。失敗する可能性があるということです。2番目には、一人でやらなければいけないということです。孤独なのです。3番目は、成功するか、失敗するかという2つの結果があるということです。うまくいったら、おめでとうということです。

受験もよく似ているでしょう。

1月15日にも成人式というものがありますが、あれはなんてことないものです。そこで、私たちの社会には、受験という成人式（通過儀礼）があるのです。

さらに考えてみると、受験は親ばなれの儀式だと思います。

小学生・中学生は、やっぱり親に甘えています。だけど、大人になったら独立してほしい。そのため、高校と大学の間に線があって、それを越えて大学に入ってほしい。

親が受験をしてくれますか。小学生の頃なら、算数を教えてくれます。だけど、中学生になれば、「早く勉強しなさい」というだけで、助けてはくれません。まして、高校生だと、質問をしても親はわかりません。

だからこそ、自分一人でやるしかありません。自分でやるということは大切です。ここが受験のポイントです。

よく考えてみると、試練をくぐり抜けたことが成人の資格なら、受験の中身はなんでもよいということになります。一芸一能入試というものがあって、ケン玉で入学できる大学があります。それなら、日本中の大学入試をケン玉にしたらどうでしょうか。国語・数学をやらずに、毎日ケン玉の練習です。ケン玉を上手にできる人が一流大学に入るとなれば、みんなケン玉がうまくなると思います。ケン玉を成人式（通過儀礼）としてもいいのです。

しかし、将来困ります。例えば、みんなケン玉ができますから、忘年会の芸には使えません。

そうだったら、大学に入って、そして就職してしてから役立つものをなるべく、成人式（通過儀礼）の試験にしたらいいのではないかとあります。

では、なにがいいでしょう。数学がいいかな。数学はコンピュータで使えます。それから、英語がいいかな。これも貿易会社とかで将来使えそうです。国語もできないと困ります。こういう科目を集めて試験にすると、現在のやり方になるのです。

② なぜ、日本には受験があるのだろう

私は受験について、もう1つ疑問を持ちました。日本には受験があるけれど、外国にはないじゃないか。どうして、日本にだけあんなに大変な受験があるのかという、疑問がでてきました。

その時考えたのは、日本は後進国だから受験があるということです。正確に言えば、現在の

日本は後進国ではありません。後進国だったからといった方がいいかも知れません。

私は、いろいろ古いことを調べてみました。例えば、明治維新の時に受験があったか。ないです。なぜなら、学校自体がなかったからです。大学なんてありません。小学校・中学校がやっとできるかできないかの頃です。だから、受験なんかありません。

では、明治時代の最初は、どうやって日本のリーダーを決めていたかということ、チャンバラです。池田屋事件や戊辰戦争とかがあって、坂本龍馬のように殺されてしまった人もいます。けれども、要するにチャンバラをくぐり抜けて死ななかった人が、明治維新のリーダーになった。これは、一種の成人式（通過儀礼）みたいなものです。

その後、明治維新のリーダー達がお爺さんになっていった時に、次の日本のリーダーをどうつくろうかということになった。いつまでもチャンバラをやっているわけにはいかないので、その代わりに大学をつくったんです。

まず、東京大学をつかって、徐々に他の大学をつくりました。それらの大学に、試験で合格して入学したら、次のリーダーにしようと思ったのです。そこで、受験がはじまりました。

日本のリーダーになりたい人、軍人や警察官になりたい人は、今までにない職業なので学校で養成しなければなりません。それに、これらの職業は、給料がとてもよいのでなりたい人が沢山いました。けれども、大学は少ししかありません。

当時の日本は、お金がないので大学は少ししか建てられません。大勢の人が大学に入りたいと思っても、大学が少ない。チャンバラをやるわけにもいかないので、試験をする。こうして、明治時代に受験がはじまったのです。

この当時はまだ、受験はごく一部の人のものでした。昭和になって、戦後すぐの頃でも、そうでした。この頃までは、受験は合格したらめっけもの、入ればうれしいというものでした。

最近の受験は変質しました。どういう意味かということ、大学をつくり過ぎてしまって、沢山あるのです。

現在の大学進学率は、どのくらいかわかりますか。約33%です。では、第2次世界大戦がはじまる前の中学の進学率は、わかりますか。10数%です。戦前の中学生は、今の大学院生と同じくらいのものすごいエリートだったのです。

現在の日本には、たくさんの学校がありますから、高校進学はあたりまえ、大学にだってみんな行くという時代になりました。だから、日本中が受験になってしまったのです。ところが、みんな進学するのがあたりまえなら、受験なんかいらぬのです。

先進国は、みんなが高等教育を受けていますが、受験はありません。日本も大学がたくさんできた時、あるいは高校がたくさんできた時に、受験をなくせばよかったです。なくす方法があります。私の頭の中には、その方法が詰っていますが、みんな私のいうことを聞いてくれないので、受験はなくなりません。

皆さんが受験をするのは、再来年ですね。再来年は、まだ受験があります。残念でした。しかし、そのうちなくなるかもしれません。私は受験はなくていいと思っています。

③ 受験は日本株式会社の入社試験である

3つめに、受験のもう一つの特徴を話します。

皆さんは、「日本株式会社」という言葉を聞いたことがありますか。これは、政府も大企業も日本中のみんなで、「日本株式会社」という大きな社会をつくっているという意味です。

私はある時に、受験は「日本株式会社」の社員をつくっているのだと思いました。

どういふことか。いい会社に入るには、いい大学に入らなければいけない。いい大学に入るには、いい高校に入らなければいけない。いい高校に入るには、いい中学に入らなければいけない。いい中学に入るには、いい小学校に入らなければいけない。いい小学校に入るには、いい幼稚園に入らなければいけない。最近、胎教といふて生まれる前に音楽を聞かされたり、一流の産婦人科病院で赤ちゃんを産まなければと考へている人までいます。困ったものです。

こゝういふお母さんに育てられたら、どうなるでしょうか。そして、そのまま受験をしたら、どういふ人間になるでしょうか。

答へるの1番目。他のことに何も疑問を持たないで、勉強ばかりしていればいいというタイプの人間が増えます。勉強を仕事に置き換へたらどうでしょうか。何も疑問を持たずに仕事ばかりをする人間ができ上がります。

答へるの2番目。家庭をかえりみなくなります。

皆さんは、家の手伝いをしていすか。料理を作る人はいすか。親がいぬ時に、きちんと炊事・洗濯ができる人はいすか。

昔はできる人がたくさんいす。二宮金次郎は、薪を背負って本を讀んでいすね。昔は家の手伝いをしていながら、勉強をすることはあたりまえのことだったので。

今の皆さんはどうですか。あまりしていぬのではないですか。

つまり、受験をしていれば、あるいは勉強をしていれば、家のことはしなくてもいいよ。こゝう中学・高校・大学で言われ続けると家庭をかえりみなくなります。

答へるの3番目。これは受験生の特徴ですが、試験をすると平均点が何点であったかを気にいす。平均点より上であったら安心。もう少し上をねらっている人は、偏差値を気にして、一定のラインより上であれば「ああ、よかった」と思ふ。これでは、自分の目標がありません。他人より上か下かだけを考へていすはだめです。

以上をまとめると、疑問も持たずに仕事に打ち込み、家庭をかえりみず、それでいて人並み以上なら満足というパターンになります。

受験は下手をすところになります。つまり、皆さんは「日本株式会社」のオジさん候補生です。受験をあまりにも真にうけていすまうと、大変なことになりますので注意して下さい。受験に何の目的があるのか、自分にとってどういふ意味があるのかをわからぬまま受験してはだめです。

受験があることはしようがない。そこで大事なことは、自分にとってどういふ意味があるのか、何の目的でやっているのかをはっきりとわかることです。そうすれば、今言ったよゝうなオジさんにはならないと思ふ。

④ 受験を利用しよう

受験をなくすことが私の考へですが、受験は今あるのでしようがない。それなら、この受験の機会を利用して、自分が生涯覚えておくに値することを身につければいいと思ふ。

ところで、私は「進路」といふプリントを見ました。皆さんの家庭での勉強時間の一覧表がありました、一言で言つて「少ない!」。大半の人が家で1時間以内しか勉強してないじゃないですか。これではまずい。勉強は時間ではないですが、問題は仕方です。

皆さんは、定期考査があると、2週間前に勉強をしませんか。これは時間の無駄です。なぜ

なら、2週間前から試験の直前までになんとか内容をおぼえますが、試験が終わった瞬間に忘れていすからです。まったくエネルギーの無駄です。

試験と関係のない時に、勉強をしなくて駄目だ。そうすれば、試験が終わってもずっと覚えていす。

私は今でも覚えていることがたくさんあります。古文の助動詞の未然形接続だったら「る・らる・す・さす・しむ・ず・む・まし・じ・まほし」で、連用形接続だったら「き・けり・けむ・つ・ぬ・たり・たし」です。なぜ、覚えているかといふと、覚えていれば一生使えるからです。そう思へば、試験と関係ないです。

例へば、皆さんは戦争に、鉄砲を持たずにいすか。戦争だったら鉄砲を持っていすかよ。そうだったら、基本的なものを暗記しないで、試験を受けいすか。教科書を見ていすと同じぐらい正確に暗記しなければ、受験はできません。ですから、暗記、暗記とバカにしなぬで下さい。

しかし、何から何まで暗記をしても駄目です。先生が「大事だ」といふことを試験と関係のない時に暗記すればいいのです。通学途中の電車の中ですぐにいす。そうしたら、そこらやと考へることができるようになります。

英語は辞書を引いた回数です。それに、一生役立つものです。その英語が受験に出ることは、とてもよいことだと思ふ。「じゃ、この際おぼえてしまおう」といふ気持ちで勉強をしたらいいと思ふ。皆さん、英語を勉強したいでしよ。試験だから嫌なので、本来これほど英語を勉強できるチャンスは他にありません。だから、それをやればいいと思ふ。

II 大学とは何なのだろう

次に「大学とは何なのだろう」といふ話をいす。

皆さんは大学を志望しているそうですが、まだ大学に入学していぬので、その実態は知らないと思ふ。それはある意味で、幸せなことかもしれせん。学生みんなが遊んでいすよゝうな大学もあるからです。しかし、それは今までの大学であつて、これからの大学はもっと立派にしていかなければいけないと私は思っています。

① 大学は小学・中学・高校より先にできた

大学とは何か。私はいつも思っているのですが、名前が悪い。誰が「ユニヴァーシティ (university)」を「大学」と翻訳したのか。

大学は「大きい」といふ文字があるので、小学生だったら「大学生は背が大きい」と思つていす。また、小学校、中学校があつて大学がある。小・中・大といふ言葉から、日本人なら大学は小学校・中学校が立派になったものだと思つていす。これは、大きな間違いです。大学といふ漢字の名前は忘れて下さい。

英語で、大学は「ユニヴァーシティ (university)」です。なぜ、そのつづりの中に「ユニヴァース (universe)」といふ言葉が入っているのでしょうか。「ユニヴァース (universe)」といふ言葉は知っていますか。ミス・ユニヴァースといふものがありますね。つまり、「宇宙」といふ意味です。なぜ、「宇宙」といふ言葉が入っているのか、不思議に思いませんか。辞書をよく引いている人は、近くにあるので見ていすかも知れません。

「ユニヴァース (universe)」は、形容詞だと「ユニヴァーサル (universal)」です。訳を見ると「普遍的」と書いてあります。「普遍的」といわれても何だかよくわかりませんね。しかし、私が解釈をすれば簡単です。「ユニヴァーサル (universal)」は、「地元と関係ない」という意味です。つまり、「日本と関係ない」という意味です。

日本の大学であっても、どこの国の大学であっても、大学は大学です。世界共通の基準でできていて、日本とは関係がないのです。

小学校では、国語や、警察・村・町の役割等を勉強するから、地元の学校なのです。中学校や高校もそうなのです。けれども、大学は特定の国に属していません。ここが大切だ。日本の大学は、そのようにできてこなかったのです、少し分りにくいかもかもしれません。

私は大学の歴史を勉強してみました。

世界で最初に大学をつくったのは誰でしょうか。いつ、どこにできたのでしょうか。世界史を勉強した人は分かるかもしれませんが。教科書には、12世紀のはじめ、イタリアのボローニャ大学が最初にできたと書いてあります。間違いではありませんが、これはキリスト教徒の話です。これより先に大学はできています。

実はイスラム教徒が、アレキサンドリアやバグダッドなどに大学をつくっていたのです。

では、なぜイスラム教徒は、世界で最初に大学をつくったのでしょうか。

イスラム教徒は、アラビア人が中心ですが、ペルシア人、エジプト人、トルコ人、インド人、それに北アフリカのムーア人もいます。できることなら、地球上のすべての民族をイスラム教徒にしようと頑張っています。

ところで、イスラム教徒は『コーラン』をととても大切にします。『コーラン』を中心に豚肉を食べない、女性はチャドルというベールをかぶる、メッカを向いて1日に5回おじぎをするなど、いろいろな決まりや規則にしたがって生活しています。これをイスラム法といいます。イスラム法がわからなければ、イスラム社会は1日も、1時間も、1秒も動きません。だから、イスラム法を研究しなければいけない。

そこで、大きな学校を建てて、世界中から若い学生を集めて、アラビア語や『コーラン』やイスラム法を勉強させる。勉強した後、もとの国に帰ってゆく。そのために、大学が必要だったのです。

この大学には、世界中の学生・学者が集まったのですから、地元とは関係がありません。それに、大学は小学校や中学校よりも古い。最初の学校は大学です。学問は大学から始まりました。

日本の場合は反対です。文部省がまず小学校から順番につくってゆきました。そのため、大学は国がつくるものだと多くの人は思っています。

これはウソです。例えば、アメリカのハーバード大学は、創立400年です。アメリカは建国200年です。アメリカより倍も長い。国がなくても大学はできるのです。

② 大学は国際機関だ

大学は国際機関ですから、特定の大学の資格は外国でも通用します。例えば、皆さんが日本の大学で卒業資格を取得したとします。学士です。外国に行ったらどうなるでしょうか。そこでも大学卒として通用します。

マスター（修士）やドクター（博士）という学位を取得しても同じです。例えば、私は、日

本では教授という身分ですが、外国に行ったらどうなるのでしょうか。教授ということでゲストハウスというところに宿泊できます。外国の先生や学生が日本にいらしても同じ待遇が受けられます。なぜでしょうか。大学は世界中すべて同じだからです。ある国の資格は、他の国でもすべて通用するのです。これが原則です。

中学校や高校は、国によって制度が違うので、大学のようなことはまったくありません。大学は国際機関なのです。

そうすると、大学で日本語を話すことはおかしい。大学は世界中で通用する学校ですから、大学の中では本来、英語を話すのが正しいのです。現在の世界共通語は、英語だからです。

ところが、今の日本の大学では、日本語しか話されていません。すこし困った問題です。

しかし、明治時代の大学は今と違っていました。日本中を探しても教授になれるほどの人がいなかったのです、たくさんの外国人を雇いました。先生は全員外国人でした。だから、講義・教科書はすべて英語やドイツ語だったのです。

明治時代のままであれば良かったのですが、日本人の学者が育ってきたら、外国人を全員追い返してしまいました。そして、国産の大学をつくったのです。その頃から、日本の大学は間違ってきたと思います。

③ アメリカの大学はいま、どう運営されているか。

さて、さきほど文部省が大学をつくるのではない。大学は世界共通のものだといいました。そこで、日本の大学はどれほどヘンテコかをわかってもらいたいので、比較参考のためにアメリカの大学の話をします。

アメリカの大学の第1の特徴は、入学試験が無いことです。アメリカの大学は、入学試験がありませんから、誰でも入れます。これが特徴だ。先進国はこうでないといけない。

では、どのように入学するかというと、まず手紙を書きます。大学に「入りたい」と手紙を書くのです。しばらくすると、「オーケーです」とか「だめです」という返事がきます。だめなことがあるので、普通は30通から50通ぐらい手紙を書きます。そうすると中には「いいよ」といってくる大学があります。そこに入学すればいいのです。これで終わりです。試験がないので入学はとても簡単です。一部の大学では共通1次試験のようなものも参考にしていますが、日本に比べて物の数ではありません。

そのかわり、アメリカの大学は卒業が難しい。入学した学生のうち半分、3分の1、5分の1ぐらいしか卒業できない大学なんてあたりまえです。卒業することはとても難しいのです。

アメリカの大学にはキックアウトという制度があります。どのようなものかということ、アメリカの大学は普通、入りたい人は全員入学させてしまいます。解析や幾何学、初等英語、フランス語などいろんな授業を半年ほどします。そして1学期の試験をします。成績不振の人がいたら、「次から来なくていい。他の大学に行って下さい」と言われて帰されてしまいます。この制度をキックアウトといいます。つまり蹴飛ばされてしまうのです。このやり方でだんだん狭められてゆくのです。

「なーんだ、入学試験と同じじゃないか」と思うでしょ。ところが違うんだな。

どこが違うか。入学試験は、大学に入る前の高校の勉強をどれだけやったかで決まります。大学の勉強にどれだけ適性があるかは関係がない。けれども、アメリカのやり方は、大学の勉強についてゆけるか、この専門分野にふさわしいかで判断しています。そうすれば、その方

がいいでしょう。大学生として一生懸命勉強しますよ。それに、勉強をすれば、必ず奨学金がもらえます。授業料を支払っても余るくらいの奨学金がもらえるので、みんな一生懸命勉強します。

アメリカの大学の第2の特徴は、みんな死に物狂いで勉強することです。

日本の受験生の比ではありません。アメリカの学生は、週末にはパーティーをやって遊んでいますが、月・火・水・木・金曜日は、ほとんど寝ないくらいに必死に勉強をしています。大学図書館は、夜中まで煌々と灯りがともっています。アメリカの国力の根本は、大学生が一生懸命に勉強するところにあるのです。

日本の大学生はだめですね。なぜかという、入学試験は難しいけれど卒業が簡単なので、勉強をしても、しなくても卒業ができてしまう。だから、日本の大学はディズニーランドになってしまっているのです。

それに、勉強をしていないからという理由で、大学教授が4年生の必修単位の試験で、半分くらいの学生を落第にすると、世間から非難されます。「就職が内定しているのにどうしたことなんだ」と、父兄が泣きついてくる。新聞では「こんな非人情な教授がいてけしからん」とたたかれる。

そうではないのです。勉強をしていないのですから、単位を落とすのはあたりまえだ。しかし、日本人は大学に入ったら卒業できると信じこんでいるので、落第させると世間から怒られてしまう。アメリカの方がずっと健全な大学だと思います。

皆さんは大学に入ったら、周りは遊んでいるかもしれませんが、アメリカの学生に負けずに、自分の目的を持って一生懸命勉強して下さい。

アメリカの大学の第3の特徴は、大学院が充実していることです。

アメリカの大学は、4年間の学部だけではなく、大学院がとても立派です。法学部や医学部等での専門家になる訓練は、みんな大学院から始めるのです。学部では専門はなく、数学や文学や人生についてのいろいろなことを自由に学べるのです。私は、日本の大学も早くこんな雰囲気になってほしいと思います。

④ アメリカの大学はどうして一流になったか

アメリカの大学の特徴を3つあげましたが、もう1つだけ良い点を話します。それは、とてもオープンだということです。

例えば、よい教授がいたら、すぐに非常な高額で引き抜きをします。プロ野球のようになっているのです。これは、とてもいいことだと思います。

では、アメリカの大学はいつから一流の大学になったのでしょうか。

実は、1930年まではハーバード大学など一部を除くと、みんな田舎の三流大学ばかりだったのです。ところが、1933年にヒトラーがドイツの政権をとりました。そして、1939年にドイツがポーランドに侵攻して、ヨーロッパで戦争が起こった。そうしたら、ヨーロッパからユダヤ人を中心に、2万から3万人もの一流の学者がアメリカに逃げてきた。

その時、アメリカは「今がチャンスだ。このすぐれた学者を全員教授に迎えよう」と考えたのです。そこで大学を大拡張して、全員大学の先生にしてしまいました。そうしたら、アメリカは大変居心地がよいので、ヨーロッパから逃げてきた学者達はみんな、居ついてしまったのです。

その後のアメリカは、人工衛星を打ち上げたり、科学技術の分野ですばらしい成功をおさめ、大変立派な国になったのです。その成功は、大学が頑張ったからなのです。

日本の大学も、今からでも遅くはないから頑張らないと駄目だ。大きな声では言えませんが、日本の大学の先生は怠け者です。勉強も研究もしていません。そんな人はクビにして、外国から優秀な人をどんどん引き抜いてくるといいでしょう。外国に対して日本の大学はもっと開いてゆかないと駄目だと私は痛切に思っています。日本の大学をよくするために私も努力しますから、皆さんもぜひ努力して下さい。

Ⅲ 人生とは何なのだろう

① 人生は予測がつかない

最後に「人生とは何なのだろう」という話をします。

人生は人それぞれで違うので、難しい。私はそろそろ50歳になるのですが、過去を振り返って人生について言い得ることがあるとすれば、「先のことはわからない」ということです。

先のことは全くわかりません。つまり、計算ができません。ところが、受験は計算ができます。このくらい勉強すれば偏差値が上がって、あの大学は合格できるかなというような計算はできるのです。しかし、受験は計算できるといっても、他のことは計算できませんから混同しないで下さい。

私の場合、自分の履歴は表面上、大変順調です。しかし、実はそうではなく、大学を卒業してから今の東京工業大に就職するまで、12年間無職でした。私は大学に就職しようと思って、12年間を過ごしてきたわけではありません。だいたい2ヵ月から3ヵ月先のことしか考えてきませんでした。今書いているこの論文が完成したらきっと凄いことになるな。この問題が解けないけれど2ヵ月先には解けるだろうか。そんなことばかりを考えていました。そうすると他のことをしている暇なんてありません。だから、先のことを考える暇もなかったのです。そして、気がついたら12年も経っていたのです。その頃、たまたま運よく仕事が見つかったのです。さもないと親はだいぶがっかりしたと思いますが……。

もし、最初からそういうつもりであったら、たぶん私はこういう人生を歩まなかったと思います。先のことは、わからないからです。しかし、先のことがわからないから希望もあり、チャンスもあります。だから、自分の責任で、自分の目標を持って進んでゆく勇気が出てくるのだと思います。

先のことはわからないからといって、まったく行き当りばったりでは駄目です。何か目標が必要です。目標をしっかりと持っていないと本当に行き当りばったりになってしまいます。

② 自分の目標を見つけよう

この前、漫画家の小林よしのりさんとお話をする機会がありました。その際、彼のいろいろな本を読みました。そうしたら、彼は私と全く違ったタイプの人でした。私はどちらかというところ「東大一直線」タイプです。小林さんは、そういうタイプを横目で見て、軽蔑していました。「奴らは、受験のベルトコンベアに乗っているロボット人間じゃないか。俺は違う。俺は漫画の才能はあるし、エリートだ。」と書いていたらしいのです。

皆さんの目の前には、あたかも「こっちに行きなさい」と言っているような、非常に広い受験という道があります。それに反発して、「俺には俺の道があるんだ」といって、その受験という道を避けようと考えている人がいるかもしれません。それでうまくゆくのであれば、私は止めません。しかし、それが単に受験に対する反発だけであつたら、やめた方がいい。それは、受験は一本道に見えますが、その中にはたくさんの可能性があるからです。

だから、受験をそれほど毛嫌いすることはないと思います。ただし、小林よしのりさんのように、「これでやれば、大丈夫なんだ」という確信がある人は、その道を進めばいいと思います。

もう一つ、別の人の例を出しましょう。

池田満寿夫さんという画家がおられます。彼は、東京芸術大学の受験に何度も失敗しました。仕方ないので、上野公園で似顔絵描きのアルバイトをはじめました。そうしたら、その似顔絵が余りにもうまいので、絵がどんどん売れるようになったのです。結局、それでメシが食えるようになってしまった。何も芸大に入らなくてもメシが食える。そこで、芸大受験をやめて、画家になってしまったのです。芸大に入る目的は、画家になることなのだから、画家になってしまえば芸大に入らなくてもいいんです。

皆さんも、受験をしなくても、自分の最終目標が実現できるのであれば、その道をどんどん進めばいいと思います。

しかし、大学には、理科系であれば実験設備があり、文科系であればいろいろな教授がいます。このようなところは、他にありません。どうしても大学に行かなければ勉強できないことは非常に多いのです。そうであれば、どんなことがあっても大学に行くべきです。私は強くそう思います。

結局のところ、大学をどう利用するかは、自分の目的意識が大事になってきます。自分がどういうふうに生きてゆきたいかという感覚が大事です。この感覚は、一人ひとり違います。

私が皆さんと同じ高校2年生の頃を思い出してみると、将来に対して非常にぼんやりしていました。ただ漠然としていて、いろいろ悩んでいました。理科系に行こうか、文科系に行こうかとか、図書館でいろんな本を読んだこともありました。

友達と議論もしました。私が「社会学がやりたい」と言うと、友達からバカにされました。その頃はマルクス主義が流行っていたのですが、「社会学は経済学よりレベルが低い学問だ。それに、社会学はブルジョア階級の反革命の学問だ。それを勉強するのだったら、お前とは絶交だ。」と言われました。私は困ってしまいました。しかし、どうも相手の言うことの方が間違っている気がしたので、私はそのまま社会学を勉強しました。こんなように友達といろいろ議論をして、自分の進路を考えるのもいいと思います。そうやって、自分の目標を見つけるべきだと思います。

③ 世間的な価値（他人の眼）と、自分の充実と、どちらを大切に使う？

私は、自分の充実ということが、何よりも大切だと思います。

今、私は何をしても非常にうれしいです。文章を書いていけば、そこに自分のいろいろな思いがこめられるのでうれしい。もちろん、それでお金がもらえれば、なおうれしいのですが、もらえなくてもいいくらいにうれしいです。今日、ここでお話しをしていることも、うれしい。今、いろいろな意味で、自分は充実していると思います。

この充実感は、どんな職業でも味わえます。皆さん一人ひとりが、そういう職業を手に入れるといいのになあとと思います。受験の時に、充実感を手に入れるのは難しい。ところで、暴走族というのがいます。「受験なんか関係ない」といってバイクを乗り回していますね。先生も注意はしますが困っています。

ところが、暴走族は20歳や25歳になるとみんな直ってしまいます。どうしてでしょうか。

暴走族は、学校と関係がなくなって就職すると直ってしまうのです。就職すると額に汗して働き、そしてお客さんが喜んでくれて、収入が得られる。いつの間にか結婚をして子供ができ、責任も生まれてきます。こういうふうにはじめてゆくと、それは一人ひとりのものであって、他人と比べても仕方がない。だから、「俺はこの道をまっすぐ進んで行けばいいんだな」と思えば、バイクを乗り回している暇なんかはない。それで暴走族は直ってしまいます。

受験は手ごたえがありません。商売と違って相手の顔が見えません。周りを見ても受験生ばかりです。だから、手ごたえがないのです。

しかし、そうであっても「英語はここまで出来たぞ」という自分の手ごたえを見つけたいと思います。そうすれば、必ず将来報われます。

皆さんは、残念ながら将来何になるかを決めるのは少し早いかもしれません。大学の専攻を決めるときに、少し考えるかもしれません。大学に入って一生懸命勉強したら、これだと思ふかもしれないし、やっぱり違うと思うかもしれません。それからでいいのですが、焦らず将来の仕事を決めてほしい。そして、その仕事に自分の充実をめざしてほしい。

④ エゴイズムを超え、他者と関わりつつ生きるために

最後にもう一つだけ、付け加えたいことがあります。

それは、自分の充実、言葉を換えれば自分が幸せになる権利と、他人が幸せになる権利との関係をよく考えてほしい、ということ。自分が幸せになることは大切なことですが、それが他人を踏み台にしたり、他人にはまったく無関心で「自分さえよければいいや」ではいけない。そういうエゴイズムでは、とても虚しいと思います。

例えば、私も皆さんもいつかは死にます。その時、ただのエゴイストだったら、誰も悲しんではくれません。誰も思い出してもくれません。「自分の人生は何だったのだろう」と振り返って終わるだけです。

いつかは自分は死ぬということをよく考えてほしい。その時、「自分の人生は、何のためにあったのか」を、自分でよくわからないと駄目だ。本当に自分を充実させるのなら、単なるエゴイズムではいけない。そのためには、他人のことも考えるというスタンスが大切です。

どんな職業でも、そういうスタンスがあると思います。例えば、パン屋さんであれば、自分のためにパンを売っています。けれども、自分が儲けようと思ったら、よいパンを作らなければいけないわけです。結局、他人もよいパンを食べられておいしいのですから、他人とつながってきます。また、学校の教員であれば、自分の生活のために話しているようなものです。だけど、生徒に喜んでほしいと思い、いい話をするためにがんばって勉強をします。その結果、生徒が喜んでくれたら、先生も生徒も両方が幸せです。このような関係を作ってゆくことが、自分も相手も充実してゆく道ではないかと思えます。

ところが、世の中はとても複雑ですから、これほど簡単にはいきません。こんなに簡単であれば、戦争もないし、何も問題は起きません。現実には、戦争も人口問題も南北対立もあります。

今、「安全」を考える

日米安保再定義の夏に

6

ベッドの横にコピー機がなければ本棚の下敷きになって死んでたかもしれない。西宮市在住の作家・小田実さんは、阪神大震災の被災体験から「人間が安心して住める国」について改めて考えている。

「安全」の基本は非暴力だ、と小田さんは言う。「山を削り、海を埋め立て、超高層ビルを建てる。そうした乱開発による暴力的な町づくりが、地震で多くの『難民』者を出した。安全な町とは、人間が歩くことを優先させた道、建物自壊車専用道があることだ。建物は周りを木に囲まれ、地はしっかりと足をついた三、四階建てくらいがいい。戦後「殺すな」の思想を主張し続けてきた小田さんが、最近「むしろ何が何でも『殺されてはならない』という視点が大事だ」と思う。「『安全』側ではなく『殺される側』から考える」といふこと。安全も全く同じだ。

従来の枠組みでは語れず
大震災、地下鉄サリン事件、そしてO(オ)157。日本の「安全神話」を崩す事件が次々と起き、改



安全観



危機が多様化し複雑に「個」と「社会」見直す時

「安全」とは何か、がいま問われている。そもそも安全や、安全保障の概念自体が、いま大きく揺らいでいる。と、国学院大経済学部古

「安全」とは何か、がいま問われている。そもそも安全や、安全保障の概念自体が、いま大きく揺らいでいる。と、国学院大経済学部古

「安全」とは何か、がいま問われている。そもそも安全や、安全保障の概念自体が、いま大きく揺らいでいる。と、国学院大経済学部古

「安全」とは何か、がいま問われている。そもそも安全や、安全保障の概念自体が、いま大きく揺らいでいる。と、国学院大経済学部古

「安全」とは何か、がいま問われている。そもそも安全や、安全保障の概念自体が、いま大きく揺らいでいる。と、国学院大経済学部古

たくさんの矛盾や問題があります。しかし、基本にはエゴイズムを超え、他人と関わりつつ生きる方法を追求することを忘れなければ、必ず道は開けると私は思っています。

社会学は、一人ひとりの人生をどのように充実させるか、そのために社会はどうすればそれを保証できるかを、考える学問です。とても必要な学問だと私は思います。ただし、皆さん全員が、それを専門に勉強する必要はないでしょう。

皆さんは将来、すごく面白い機械を作ったり、世界で一番速い飛行機を作ったり、銀行に勤める人もいれば、コンピュータをする人もいるかもしれない。これは一人ひとり違います。しかし、そこに自分の人生、自分の充実をどれだけかけているかを確かめながら、将来の進路をぜひ決めていただきたい。

高校時代は楽しい。そして、今は永遠に学生をやっている気分にいるかもしれません。しかし、こんな時代はあっという間に過ぎてしまいます。今を大切にしてください。以上です。
(拍手)

(1995年11月25日 2学年進路講演会より)

橋爪大三郎 (はしづめ だいさぶろう) 氏について

プロフィール

- 1948年 鎌倉に生まれる。
- 開成高校卒業
- 1972年 東京大学文学部社会学科卒業
- 1977年 同大学院社会学研究科博士課程修了
- 以後、無所属で執筆に専念
- 1989年 東京工業大学助教授(社会学)
- 1995年 同大学教授



専攻 社会学

主な著作

- 『はじめての構造主義』(講談社現代新書・1988)
- 『冒険としての社会科学』(毎日新聞社・1989)
- 『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館・1992)
- 『社会がわかる本』(講談社・1993)
- 『性愛論』(岩波書店・1995)
- 『大問題! Q&Aでわかる世紀末ニッポン』(幻冬舎・1995)
- 『橋爪大三郎の社会学講義』(夏目書房・1995)
- 『新生日本』(共著・学習研究社・1995)

「衣食住」は満たされて
「安全にもルールや順序がある」

「ひとりよがり」脱却を
後戻りができないなら、どうすればよいか。竹田さんは「エロスと安全の思想」をもつ必要性を説く。